

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成31年4月11日(2019.4.11)

【公開番号】特開2018-158157(P2018-158157A)  
 【公開日】平成30年10月11日(2018.10.11)  
 【年通号数】公開・登録公報2018-039  
 【出願番号】特願2018-131168(P2018-131168)  
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】平成31年3月1日(2019.3.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前面側を遊技球が流下可能な遊技盤と、前記遊技盤に設けられ、遊技球が入球可能な入賞口を有する入球ユニットとを備えた遊技機において、

前記入賞口は、開放状態と閉鎖状態とに切り替わる開閉部材によって開閉され、

前記入球ユニットの前側には遊技領域を背部領域として形成するカバー部が設けられ、

前記カバー部の盤面側には前記遊技球の流通を案内する流通案内手段が設けられ、

前記流通案内手段として、遊技球の流路を分岐させる非可動の固定部材として設けられ前記入賞口へと向かうように遊技球を転動させる傾斜面を有する分岐部を備え、該分岐部によって、前記入賞口に流通可能な第 1 流路と前記入賞口に流通しない第 2 流路とに遊技球が分岐されるようになっており、

前記分岐部の前記傾斜面に到達した遊技球が該傾斜面を前記入賞口へと向かうように転動したとき、前記開閉部材が閉鎖状態にある場合には必ず該開閉部材によって前記入賞口へ受け入れられず、前記開閉部材が開放状態にある場合には必ず前記入賞口へと案内され、

前記カバー部は、透明な箇所を介して該カバー部の盤面側を流通する遊技球を視認可能に構成されている

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

上記遊技機に設けられる大入賞口等の入球口へと流通させる入球ユニットはマンネリ化している実情にあり、遊技興趣を向上させるものの登場が望まれている実情にある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００６】

本発明は上記の実状に鑑み、新たな入球ユニットにより遊技興趣の低下を抑制可能な遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

上記目的を達成するために、請求項１の発明においては、

前面側を遊技球が流下可能な遊技盤と、前記遊技盤に設けられ、遊技球が入球可能な入賞口を有する入球ユニットとを備えた遊技機において、

前記入賞口は、開放状態と閉鎖状態とに切り替わる開閉部材によって開閉され、

前記入球ユニットの前側には遊技領域を背部領域として形成するカバー部が設けられ、

前記カバー部の盤面側には前記遊技球の流通を案内する流通案内手段が設けられ、

前記流通案内手段として、遊技球の流路を分岐させる非可動の固定部材として設けられ前記入賞口へと向かうように遊技球を転動させる傾斜面を有する分岐部を備え、該分岐部によって、前記入賞口に流通可能な第１流路と前記入賞口に流通しない第２流路とに遊技球が分岐されるようになっており、

前記分岐部の前記傾斜面に到達した遊技球が該傾斜面を前記入賞口へと向かうように転動したとき、前記開閉部材が閉鎖状態にある場合には必ず該開閉部材によって前記入賞口へ受け入れられず、前記開閉部材が開放状態にある場合には必ず前記入賞口へと案内され

、前記カバー部は、透明な箇所を介して該カバー部の盤面側を流通する遊技球を視認可能に構成されている

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００８４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００８４】

本発明の遊技機によれば、新たな入球ユニットにより遊技興趣の低下を抑制することが可能となる。